

いのちの尊さ



太魂教会
主管 浅田 妙浄

おかげさまでありがとうございます。
本日は、皆様に「いのち」についてお話したいと思います。

皆様、ご自分が

「この世に生まれてきて本当によかった」、「この世に生きていてありがたい」と思っただけでしょうか？

私は、世の中のすべての方はこの世に生まれてきて幸せであるべきだと思います。

しかし、幸せというものは基準がなく、人によっても幸せは違うものなのです。例えば、どんなお金持ちのどんな地位名誉のある家庭に生まれられても、愛情のない冷たい家庭で育てられた方もおられるでしょう。また、その日、本当にご飯を分け合って食べないといけないような生活の中で育てられた方でも、愛情をいっぱい受けて育っている方もおられるでしょう。どちらが幸せかはあなたのお心しだいなのです。幸せとは、どこまでご自分の環境に幸せを感じる事が出来るかどうかのお気持ちの差なのです。

神仏はすべての方を幸せにしてあげたいという気持ちをもって人間に生まれさせてくださっています。人間は生まれるまでに、前世があり、この世があり、それぞれにあの世の「行」があり、そしてまた来世へと続いているのです。この世に生まれるためには、前世の自分が歩んだ様々な行いによってあの世の「行」が決まります。子どもは親を選び、神仏のご縁を以って、ご両親の元に生まれてくるのです。ご自分でその家庭を選び、親を選んで生まれてきたのですから、ご自分が生を受けたこと、こうして今元気に暮らしていること、ご自分の置かれた環境にどこまで感謝なさるかによって、また次のお幸せへの芽が出、道が開かれるのです。

良くない事ですが、私は、前世に人生を全うせず自らの命を絶った者です。

私の前世の因縁と浅田家の因縁との両方のために、母が早産で出産するという事態となりました。戦時中の自宅での出産であったため、医療設備も技術もなく、いったん生まれたものの仮死状態となってしまうしました。何とか生が戻りましたが、七ヶ月の未熟児であったため、肺活量が少なく心臓も弱いなど、小さいときは人より成長も遅かったのです。その後は、成長とともに元気に育ち二十歳代で天啓を受けました。また、縁があり結婚もし子どもも授かりました。

しかし、今から二十数年前に注射の副作用のショックで倒れ、半身が不随となっていました。生死の狭間をさまよった後、体の自由がまったく利かない絶望的な状況になってしまったのです。それでもただ一つ、目が見えることに心から喜びを感じ、少しでも食事を食べられることに感謝することができただけです。この世に落胆する事なく、前向きにさせていただけました。そして、神からいただいた使命である「少しでも人様のお役に立つこと」が私のよろこびとなり、この世に生きている価値を自分で見つけるこ

とことができました。もし、私がまたこの辛い状況に絶望し命を絶つたとすれば、来世にはさらに辛く苦しみと絶望をもって生まれるのだと思います。

私は仕事柄、色々な方にお目にかかります。

以前、長い間苦しまれ、毎日のように「死にたい。死にたい」と言われていた若い方に、「必ず幸せになれるからがんばりなさい」と励まし続けたことがあります。ある時から「先生、私がんばります」と言っただけで、五年程経ったある日結婚が決まり、やがて赤ちゃんも生まれました。その方から「この世に生きていて、こんなに幸せなことはありません。どこまでこられたのも、神仏、先生のおかげです。」と喜びの言葉を頂きました。

新しい命を生み出し、わが子をその手に抱かれたときに、自ら生を絶たなかったことに対して、非常に大きな喜びを感じられておられたのです。

人生と言うのは、どれだけ落胆されることがあっても、「必ず自分は幸せになるんだ」という一つの信念を持って信じておられると、必ず幸せはやってまいります。

どんなに人生に落胆されても、どれだけ辛い事があっても、この世のことはこの世で解決いたします。

人生は捨てたものではありません。

どんなに辛い人生の方でも、目の見えない方歩けない方でも、病の床に伏された方でも、また、事業につまずいた方でも、失恋した方でも、人生は捨てたものではないのです。

神仏のご加護の元で、慈悲の心でお徳を積んで下さい。幸せな運勢、運命はご自分の努力と心がけで必ず花が開きます。

この世に頂いた命を、どんな事があるうとも全うする事の大切さを、私がこの身を以って今日のご縁の方々にお伝えしたいと切に願っております。

神仏からいただいた命、ご自分で選んで生まれてきた命を粗末にせず大切になさって、幸せな人生を歩んでいただきたいと思えます。

おかげさまでありがとうございます。

合掌

太魂教会 主管 浅田妙浄法尼の横顔

昭和十六年、大阪に生まれる。小学校五年のときから、厳しい修業の道に入り、若くして滝行、護摩行、山行等を修め、師匠からも「目置かれるほどの「修行者」となる。二十歳過ぎに、主神「秋津天御親太御魂大神」の天啓を受け不思議な神力を授かり、以来太魂教会を興こし、多くの人々を幸福へと導く。その功績著しく修業をした本山「妙見宗本滝寺」より、昭和五十九年一般僧侶高位「僧上」の僧階を授与される。